

平成29年度 事業報告

湘南地域就労援助センター

湘南障害者就業・生活支援センター

1. 平成29年度 新規相談登録

平成29年度の新規相談者は176人、登録に至った件数は88人であった。一時相談窓口としての機能を果たす一方、即時的情報提供希望といったセンター支援を要さない相談が多く、登録に至ったケースは半数程度に留まっている。また、特別支援学校卒業生の定着支援を教育側と連携して行っており、新規登録の知的障害者のうち17名が該当する。

新規求職相談(66名)では、精神障害者の相談が増加している傾向は変わらず過去最大の相談者数となった。また、その大半が就労準備性や生活リズム等が整っていない相談者だったこともあり、様々な支援ツールを活用したり医療機関と連携したりすることで、就労のみならず適切な就労移行支援事業所等の訓練機関へ繋いだり提案したりする支援を実施した。

新規定着相談(22名)の大半は、特別支援学校やハローワークからの依頼が目立っている。就職時に関わっていた機関を中心に、相談支援機関や医療機関等とも連携し、それぞれが役割を全うした支援体制の構築に力を注いだ。一方、就労準備性が整わない状態で就労となり、結果として入社直後から職場不適合や早期退職に至ってしまうケースも見られた。就労を送り出す側と、就労における適正なマッチングについてさらなる連携が求められている。

【求職相談】

障害内容		年代別					
		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
知的	31	20	7	4	0	0	0
精神	31	0	8	9	9	5	0
身体	3	0	1	1	0	1	0
その他	1	0	0	0	1	0	0
合計人数	66	20	16	14	10	6	0

(その他内訳:手帳無し)

相談経路

ハローワークおよび直接相談が主な相談経路だった。また、就労継続支援事業B型・医療機関・特別支援学校・相談支援事業所からの相談が寄せられた。

【定着支援相談】

障害内容		年代別					
		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
知的	9	3	3	3	0	0	0
精神	11	0	2	5	3	1	0
身体	2	1	0	0	1	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計人数	22	4	5	8	4	1	0

相談経路

知的障害者の大半は、特別支援学校・サポート校・訓練校からの相談となっている。精神障害者はハローワークから紹介を受けるケースが多く、その大半は就職が決まった段階での相談となっている。

2. 平成29年度 新規就労者

昨年度の新規就労者(38名)に比べ、今年度は2倍以上の82名となっている。平成30年度からの障害者法定雇用率の上昇を見据えた企業側の積極的な障害者雇用への取り組みが感じられた年だった。また、全体の約60%が週30時間以上で就労している状況は昨年度と同様の傾向であった。一方で、昨年度0名だった週20時間未満の就労者が全体の6%発生している。今後、精神障害者における短時間労働者の雇用率算定方法の変更にもない、精神障害者の短時間雇用の増加が見込まれる。これまでと同様の定着支援に加え、ステップアップを目標とした定着支援ニーズの高まりが予想できる。

障害内容		年代別					
		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
知的	51	17	17	9	6	1	1
精神	28	0	9	9	8	2	0
身体	3	0	0	2	1	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計人数	82	17	26	20	15	3	1

勤務時間	週30時間以上	週20時間以上30時間未満	週20時間未満
知的	38	11	2
精神	14	11	3
身体	3	0	0
その他	0	0	0
合計人数	55	22	5

職種と人数

【上記82名の職種について】

飲食店:4名(知2、精2)、運送配送:1名(知1)、クリーニング等:4名(知4)、工場等作業:21名(知17、精神4)、梱包検品:2名(知2)、事務:21名(知8、精10、身3)、清掃メンテ等:18名(知11、精7)、接客等サービス:4名(知2、精2)、販売品出し等:6名(知的4、精2)、その他(保安警備):1名(精1)

3. 平成29年度 離職者

離職者は35名であった。障害別では、知的障害者が最も多く20名、ついで精神障害者が12名、身体障害者が3名となっている。退職理由別に見ると、やむを得ない離職(事業所閉鎖・転居)および、前向きな離職(転職活動)による離職が13名(知的8名・精神5名)で、自己都合による退職は22名(身体3名・知的12名・精神7名)だった。自己都合による退職では、職場内における人間関係の纏れや体調不良を理由とするケースが目立った。一方、勤続年数1年未満での離職が約20%存在する。特に、就職時に関わっていた機関から引き継いだケースにおいて、本人の希望職種と業務スキル・障害特性のマッチングが出来ずに離職するケースが多かった。

退職理由

人間関係	体調不良	勤怠不良	職場環境	業務内容	転職希望	事業所閉鎖	その他
6	6	3	2	2	8	4	4

退職者の内訳

障害程度	年齢	性別	勤続年数	退職理由	退職後の状況
知的B1	45	男	1ヶ月未満	人間関係	在宅
精神2級	27	男	3年	転職希望	再就職
知的B2	23	男	2ヶ月	転職希望	再就職
知的B2	23	女	9年1ヶ月	自己都合	在宅
身体3級	40	男	2年4ヶ月	体調不良	在宅
精神2級	44	男	1年6ヶ月	体調不良	地活
知的B2	33	女	2ヶ月	職場環境	再就職
知的B2	24	男	5年4ヶ月	業務内容	B型
知的B2	20	男	3ヶ月	人間関係	援助終了
知的B2	25	男	1年5ヶ月	人間関係	B型
精神3級	41	男	2ヶ月	体調不良	在宅
精神2級	43	女	1年9ヶ月	人間関係	在宅
知的B2	27	女	2ヶ月	体調不良	在宅
知的B2	45	男	15年6か月	事業所閉鎖	再就職
知的B2	43	男	15年6か月	事業所閉鎖	再就職
精神3級	30	男	3年6ヶ月	転職希望	再就職
知的A2	44	男	6年6ヶ月	勤怠不良	在宅
知的B2	44	男	15年7ヶ月	事業所閉鎖	再就職
知的B2	33	男	14年7ヶ月	勤怠不良	在宅
精神2級	39	男	4年9ヶ月	転職希望	再就職
精神2級	40	女	3年8ヶ月	人間関係	移行
知的B1	19	男	10ヶ月	勤怠不良	在宅
精神3級	26	男	1年5ヶ月	転職希望	再就職
身体5級	36	女	1ヶ月	職場環境	地活
知的B1	24	男	5年11ヶ月	自己都合	在宅
知的B2	19	男	10ヶ月	事業所閉鎖	在宅
精神3級	43	女	2年11ヶ月	転職希望	再就職
知的B2	20	女	3ヶ月	体調不良	在宅
身体6級	54	男	3年6ヶ月	業務内容	B型
精神3級	48	女	2ヶ月	人間関係	在宅
精神2級	51	男	5ヶ月	体調不良	在宅
精神2級	43	男	4年5ヶ月	契約満了	在宅
知的B2	46	男	1年7ヶ月	転職希望	再就職
知的B2	20	男	1年11ヶ月	県外転出	援助終了
知的B2	21	男	2年11ヶ月	転職希望	再就職

4. 平成29年度末 求職者状況

平成29年度末における求職者総数は226人となった。
 知的障害者の10代は、1名を除き就職を控えた特別支援学校卒業予定の登録者である。特別支援学校の生徒を除いた求職者における障害別の内訳は、精神障害者が最も多く全体の半数(約50%)を占め、続いて知的障害者(約38%)、身体障害者(約11%)となっている。
 日中活動の状況を見ると、登録求職者の約60%(132人)が通所先がない在宅となっている。在宅者の多くは就労準備性が整っておらず、尚且つ日中活動・訓練の必要性を感じている層も少ない為、結果として在宅求職者が増える結果となった。地域の障害福祉サービスへの繋ぎなど、求職登録者の就労に向けたステップアップをサポートをどう進めるか、が課題となっている。

障害内容		年代別					
		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
知的	97	18	44	15	18	2	0
精神	104	0	15	32	39	17	1
身体	23	0	3	5	7	7	1
その他	2	0	0	0	2	0	0
合計人数	226	18	62	52	66	26	2

(その他内訳:手帳無し)

年度末の状況	就労移行支援事業所	就労継続A	就労継続B	他機関利用 ※1	在宅	その他 ※2
知的	13	6	20	2	56	0
精神	14	12	15	2	61	0
身体	4	2	3	0	14	0
その他	0	0	1	0	1	0
合計人数	31	20	39	4	132	0

※1 他機関:地域活動支援センター、訓練機関など

※2 その他:デイケア、アルバイトなど

5. 平成29年度末 就労者状況

障害別の内訳は以下の通りである。知的障害者が約70%を占めているが、障害別における増減を前年度と比較して見ると、精神障害者が約35%増と最も多い増加率となっている。精神障害者の支援ニーズが高まっていることが就労者状況からも見て取ることができる。

雇用形態では、週30時間以上が全体の約75%と最も多く、精神障害者に着目しても約半数が週30時間以上の勤務となっている。また、全体の約30%が特例子会社への就労となっている。勤続年数では、10年を超えて働き続けている方が全体の約20%となっている。大半が知的障害者となっており、安定して働けている一方で加齢に伴う身体面や生活面の変化にどう対処するか、事業主側と検討を進めることも課題となりつつある。

障害内容		年代別					
		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
知的	324	17	148	80	57	16	6
精神	100	22	41	32	5	0	0
身体	21	1	4	5	8	1	2
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計人数	445	40	193	117	70	17	8

勤務時間	週30時間以上	週20時間以上30時間未満	週20時間未満
知的	251	72	2
精神	56	40	3
身体	15	6	0
その他	0	0	0
合計人数	322	118	5

勤続年数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上
知的	50	61	52	81	80
精神	30	34	19	17	0
身体	5	6	5	3	2
その他	0	0	0	0	0
合計	85	101	76	101	82

業務内容
事務、事務補助、清掃、パンの製造・販売、おにぎり作り、介護、介護補助、解体、器具洗浄、クリーニング、検品仕分、緑化業務、洗車、シーツ交換、品出し、接客、自転車修理、商品の仕分・管理・梱包、食材仕分、食堂業務、食品加工、食器調理器具洗浄、調理補助、ベッドメイク、洗濯、名刺作成、洗濯物たたみ、データ入力、伝票入力、廃棄物の分別回収、箱折り、美容室アシスタント、本の加工、レジ業務、ライン作業、郵便業務、メール集配、フォークリフト、部品組立、美容室アシスタント、引越し作業、販売管理、販売補助、販促整理、製本、印刷、複写、塗装業務、パーツ磨き、商品の加工・バック詰め

6. 援助活動状況

昨年度と比較すると、相談支援件数は軒並み増加している。中でも、定着支援に関する支援件数は、昨年度対比で2倍となっている。新規就労者数に比例する形で、就労直後の相談支援・企業訪問等を丁寧を実施した結果が数値として表れた。また、昨年度は、障害者就労促進センターの事業変更に伴うケース引継ぎ(7名)を受ける年度だった為、丁寧な引き継ぎを行うことを目的に障害者就労促進センターとの連絡調整を頻繁に実施したことも支援実績が増えた大きな要因となった。なお、引き継ぎについては大きなトラブルなく終えることが出来た。「その他」の件数も前年度対比で増加している。精神障害者の相談が増えていることから、電話や職場訪問による相談のみならず、通院同行や主治医へ直接相談することも積極的に実施するなど、医療機関と連携を図るケースが増えた年となった。

■支援対象障害者に対する相談・支援件数(手段別)

	件
センターへの来所(本人のほか、家族なども含む)	744
電話・ファクス・メール(本人、家族などからの電話のほか、センターからの電話も含む)	4,675
職場訪問(定着支援のほか、職場実習支援を含む)	1,187
家庭・利用施設への訪問	77
その他(ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等)	1,240
合計	7,923

■支援対象障害者に対する相談・支援件数(内容別)

	件
就職に向けた相談・支援	2,085
職場定着に向けた相談・支援	4,770
日常生活、社会生活に関する相談・支援	134
就業と生活の両方にわたる相談・支援	934
合計	7,923

■出張相談

茅ヶ崎市・寒川町と連携し、同エリア内へ出張して就労に関する相談を受ける活動を行い、必要な情報提供や援助センターの登録につなげる活動を行った。

開催場所	エリア	相談件数	備考
サザンポ	茅ヶ崎市	11件	ハローワーク藤沢・茅ヶ崎市内の相談支援事業所と協同で実施
寒川町役場	寒川町	4件	年3回実施

8. 関係機関との連絡会、啓発活動の実施状況

【連絡会等参加及び実施状況】

障害者就労支援に関する連絡会	11月
平成29年度障害者就業・生活支援センター事業における都道府県センター連絡会議	9・12月
障害者就労支援に関する連絡会(教育機関)	12月
湘南障害者就業・生活支援センター事業説明会(事業所ご担当者向け)	7月
平成29年度障害者就業・生活支援センター南関東ブロック経験交流会議	11月
障害者就業・生活支援センター、神奈川県障害福祉課意見交換会	6月
神奈川県特別支援学校 進路指導連絡協議会 知的障害部会	7・1月
障害者就業・生活支援センター事業をより深く考えるための全国フォーラム	2月
チーム支援会議	毎月1回(年12回)
湘南東部障害保健福祉圏域自立支援協議会	7・11・3月
湘南東部圏域就労支援機関連絡会	9・2月
藤沢市障がい者総合支援協議会	6・8・10月
藤沢市障がい者総合支援協議会就労・進路支援部会	5・8・10・2月
茅ヶ崎市自立支援協議会代表者会議	5・9・2月
茅ヶ崎市自立支援協議会就労支援部会	4・6・7・8・10・12・2月
障がい者就労援助に関する2市1町広域連携調整会議	7・3月
湘南東部地区精神障害者就労推進協議会(SEJA)	毎月1回(年12回)
神奈川県雇用対策課主催 障がい者雇用のための企業交流会「はじめの一歩」	6月
企業と就労支援機関の出会いの場	3月
平成29年度神奈川県障害者就業・生活支援センター連絡会	9・2月
NPO法人障害者雇用部会定例会	5・9・11・1・3月
NPO法人障害者雇用部会企業分会	4・6・8・10・12・2月

【啓発活動】

1. 研修会、セミナー等での講演

- 10月11日 湘南東部圏域 就労支援専門員 基礎研修コース
「就労支援とは?～就労支援員の役割、機能について～」
- 10月19日 湘南東部圏域 就労支援専門員 基礎研修コース
「就労の準備性について」
- 12月8日 湘南東部圏域 就労支援専門員 基礎研修コース
「ディスカッション:実地ワークの報告」
- 12月4日 サイゼリア社内セミナーにて講演「支援機関の役割と対応事例」
- 2月14日 藤沢養護学校鎌倉分教室進路講座
- 2月16日 藤沢市障がい福祉サービス事業所説明会
- 3月16日 ハローワーク藤沢主催「企業と就労支援機関の出会いの場」にて講演

2. 就労者向けの勉強会

- 5月29日「新社会人講座」8名参加
- 6月24日「休日の過ごし方講座～運動編～」10名参加
- 9月1日「身だしなみ講座」15名参加
- 11月25日「職場でのストレス解消法」34名参加

3. 就労者向けのアフターワーク

- 5月20日「ボウリング大会」43名参加
- 7月8日「食事会」47名参加
- 11月18日「鉄道好き集まれ」13名参加
- 12月2日「みかん狩り」53名参加
- 3月23日「ビンゴ大会・勤続表彰」96名参加